

家縛りプロジェクト

Harutaka Matsumoto (hmp Art)



No. 03 磯部邸(神奈川)



No. 13 澤田邸(東京)



No. 37 メゾン・ド・ブ(フランス)



No. 18 大久保邸(神奈川)

家縛りプロジェクトは、家を縄で十字に縛り、縄文土器のように縄の記憶と痕跡を残すアートプロジェクトです。2010年からスタートしました。

その家の住人や友人、集まってくれた人たちと一緒に、ケーキの箱をリボンで結ぶように、家の建物全体に縄を十字にかけて蝶々結びをおこないます。こう縛るという決まりはなく、参加者の智恵と力を合わせて工夫しながら縛ります。最後の締めになる蝶々結びは家の人たちに担当してもらい、これがメインイベントとなり、完成したら皆が集まって縛られた家の前で記念撮影をおこないます。

普段、景色に馴染んで曖昧になっている「家」のイメージは、縛られる時の流れのなかで少しずつ世界に姿を現します。また家を縛る縄の結び目は、あたかも家からの縛りとそこから解放されるアンビバレントな気持ちを形にした彫刻のように、私たちには感じられます。

私たちは、このアートプロジェクトを新しい縄文芸術として制作し、参加した人たちや展示を観た人たちの記憶や心に、縄の思い出＝縄文を残してもらいたいと思っています。

家庭の美学

あるとき家々の玄関前に新聞を十字に縛り結んであるのを見て、新聞が縄によって四分割され、またその縛り方が家ごとに違っていることに気づき、それがどういうことかということに興味が生まれました。

家には、その家独自の生活の仕方や美観があって、そうした美観は言語化されぬまま延々と家族に受け継がれています。私は、家族には外的なものと内的なものがあって、基本的に家族単位の文化は人間という種が生まれてからあって、実はそこから産み出される家族の文化がオリジナルな芸術を産み出す重要な要因にもなっているのではないだろうか考えるようにもなりました。

つまり新聞の縛り方が家ごとに異なっているのは、その家の価値観、美学が色濃く反映しているからで、それが面白いのは、そのような家族に受け継がれた価値観や美観が心を打つからではないか、ならば現在ほとんど意識されていないこれを「家庭（家族）の美学」と名付け、家庭（家族）の美学が多様な価値を生み出す源泉として考えることが将来重要になってくると予想しました。

家縛りプロジェクトは、集まった人たちに五・七・五の十七音で表現する俳句のように、「家」を十字に縦横四分割するよう、また好みの形になるように、というルールで縛ってくださいとお願いしてスタートします。そのことにより縛る人たちの価値観や美学が縄や縄の形に反映し、それぞれの家の異なりや隠されたものが現れ、より分かりやすいものになります。

クリスト&ジャンヌ・クロードの作品との類似を指摘されることがありますが、家縛りプロジェクトはアーティスト自身の好みや価値観をできるだけ反映させない制作方法となりますので、目標とするイメージに向かってプロジェクトが進行する彼らの作品とはこの点において大きくコンセプトが異なっています。

家縛りプロジェクトは、現代の多様な価値観のなかにおいて、独自の価値や美を作り出す究極のフィールドを家族や家庭に置き、家を縛る縄にその家族の美学を浸透させ、その形を記憶や写真に残す芸術作品です。これまで数字の4、ないし四つを使って作品を作っていますが、十字に縛ることも四分割されるというところで四つの一部と考えています。

松本 春崇 (hmp Art)

- 001 猪股酒店（市川、千葉） 2010/02/09
- 002 墨屋邸（鎌倉、神奈川） 2010/07/17-24
- 003 礒部邸（鎌倉、神奈川） 2010/07/17
- 004 アポロの家（鎌倉、神奈川） 2010/17/17
- 005 星埜邸（国立、東京） 2010/08/07
- 006 佐藤邸（横浜、神奈川） 2010/09/18
- 007 松坂ビル（柏、千葉） 2011/01/30
- 008 AISHO MIURA ARTS（曙橋、東京） 2011/03/05-04/02
- 009 薄井邸（松本、長野） 2011/10/08
- 010 相澤邸（松本、長野） 2011/10/08
- 011 遊工房（善福寺、東京） 2012/05/16
- 012 T 邸（軽井沢、長野） 2012/09/02
- 013 澤田邸（八幡山、東京） 2012/09/30
- 014 Gallery21yo-j（等々力、東京） 2012/11/22-12/09
- 015 市立市川考古博物館（市川、千葉） 2013/03/31
- 016 チェリーハイム（池袋、東京） 2013/05/25-06/23
- 017 シェルガーデン富ヶ谷（富ヶ谷、東京） 2013/07/20-23
- 018 大久保邸（横浜、神奈川） 2013/09/28
- 019 坂野邸（呉、広島） 2013/12/08
- 020 足立区立寺地小学校]（扇大橋、東京） 2013/12/14
- 021 みずほ銀行中野支店（鍋横商店街、東京）
空間縛り 2013/12/25-27 念力縛り 2013/12/26-28
- 022-025 4 軒まとめて家縛り in 稲村ヶ崎（鎌倉、神奈川） 2014/05/24-06/01
No.022 阿部邸 No.023 吉川邸 No.024 墨屋邸 No.025 南部邸
- 026 NADiff（恵比寿、東京） 2014/08/17-24
- 027 ステファンのポートハウス（カリフォルニア、USA） 2015/03/28
- 028 横浜美術大学（横浜、神奈川） 2015/05/23-24
- 029 explosion tokyo（西麻布、東京） 2015/06/07-16
- 030 あづま邸（恵比寿、東京） 2015/06/27-07/06
- 031-034 In 小坪路地展（逗子、神奈川）
No.031 天照大神社 2015/10/31
No.032 南町テラス 2015/10/31-11/03
No.033 鮎丸漁師小屋 2015/10/31-11/01
No.034 鮎丸 2015/11/03
- 035 神奈川県立相模湖交流センター（相模原、神奈川） 2016/11/20-25
- 036 相模原市立桂北小学校（相模原、神奈川） 2016/01/12-03/12
- 037 ラ・メゾン・ド・プ（ボルドー/オーダンジュ、フランス） 2017/06/17-23
- 038 表参道画廊（神宮前、東京） 2017/09/02-05
- 039 山田邸（横浜、神奈川） 2017/11/04-08
- 040 日仏会館ーアッサンブラージュ縄文原体（恵比寿、東京） 2018/04/07-04/19
- 041 つないで結ぶ足利・愛（足利、栃木） 2018/05/06-06/16
- 042 校庭をつないでむすぶ大泉第一小学校（練馬、東京） 2018/11/08-11/10
- 043-052 旅する家縛りプロジェクト 縄の聖地・信州へ（東京、神奈川、長野） 2019/05/12-2020/02/24
No.43 双ギャラリー（東小金井、東京） 2019/05/12-05/26
No.44 SHO@home（相模原、神奈川） 2019/06/23-07/07
No.45 金井邸（松本、長野） 2019/07/06
No.46 おっとぼけ美術館（松本、長野） 2019/07/06-07/12
No.47 工房チセ（茅野、長野） 2019/07/27
No.48 アノニムギャラリー（茅野、長野） 2019/07/28
No.49 ninjinsan（下諏訪、長野） 2019/08/24-09/07
No.50 タロウ珈琲式号店（下諏訪、長野） 2019/08/25-現在
No.51 中ツ原縄文公園（茅野、長野） 2019/08/26-09/01
No.52 幻の諏訪清陵高校（上諏訪、長野） 2019/13,14
- 053 東京造形大学附属美術館（八王子、東京） 2022/05/23-06/25

No.38 表参道画廊（2017年9月、神宮前、東京）



No.30 あづま邸（2015年6月、恵比寿、東京）



No.25 南部邸（四軒まとめて家縛りin稲村ヶ崎 2014年5月、6月 神奈川）



No.21 みずほ銀行中野支店（2013年12月、中野、東京）



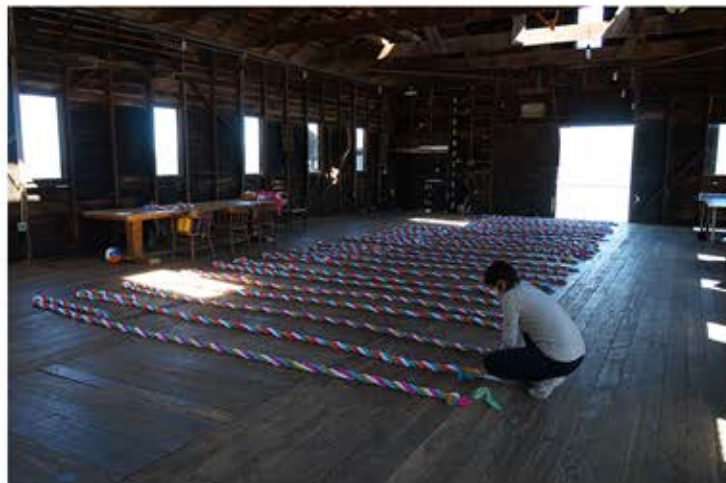
No.08 アイショー ミウラ アーツ (2011年3月、曙橋、東京)

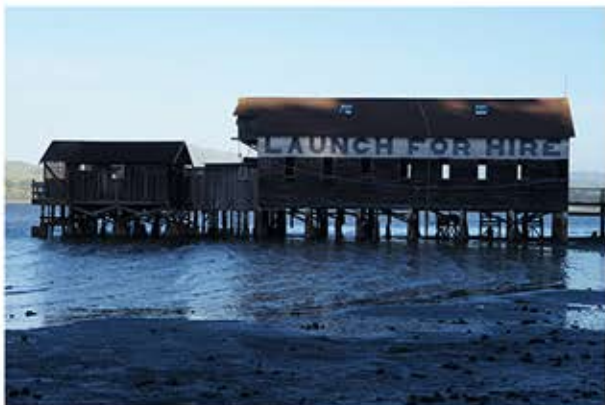




(左上) 縛られたバイオリニスト
(左中) インスタレーション
縄文式ダブルバインド"キャサリンの部屋"
(上) 縛られた愛正

No.27 ステファンのボートハウス (2015年3月、インバネス/カリフォルニア、USA)





No.37 メゾン・ド・プ (2017年6月、ボルドー、フランス)





●幼稚園で縄作りワークショップ
(ECOLE MATERNELLE PUBLIQUE BARBEY
ボルドー、フランス)

幼稚園児には縄を縫うのが難しいので、用意した布袋に好きな絵を描いてもらった。その布袋にふくらませた風船を入れて立体的にし、友達同士でつなぎ合わせて一本の縄にした。

後日、縛られたメゾン・ド・プの縄につないで結び、メゾン・ド・プの家縛りを完成させた。



▼メゾン・ド・プにつながれた子どもたちの縄



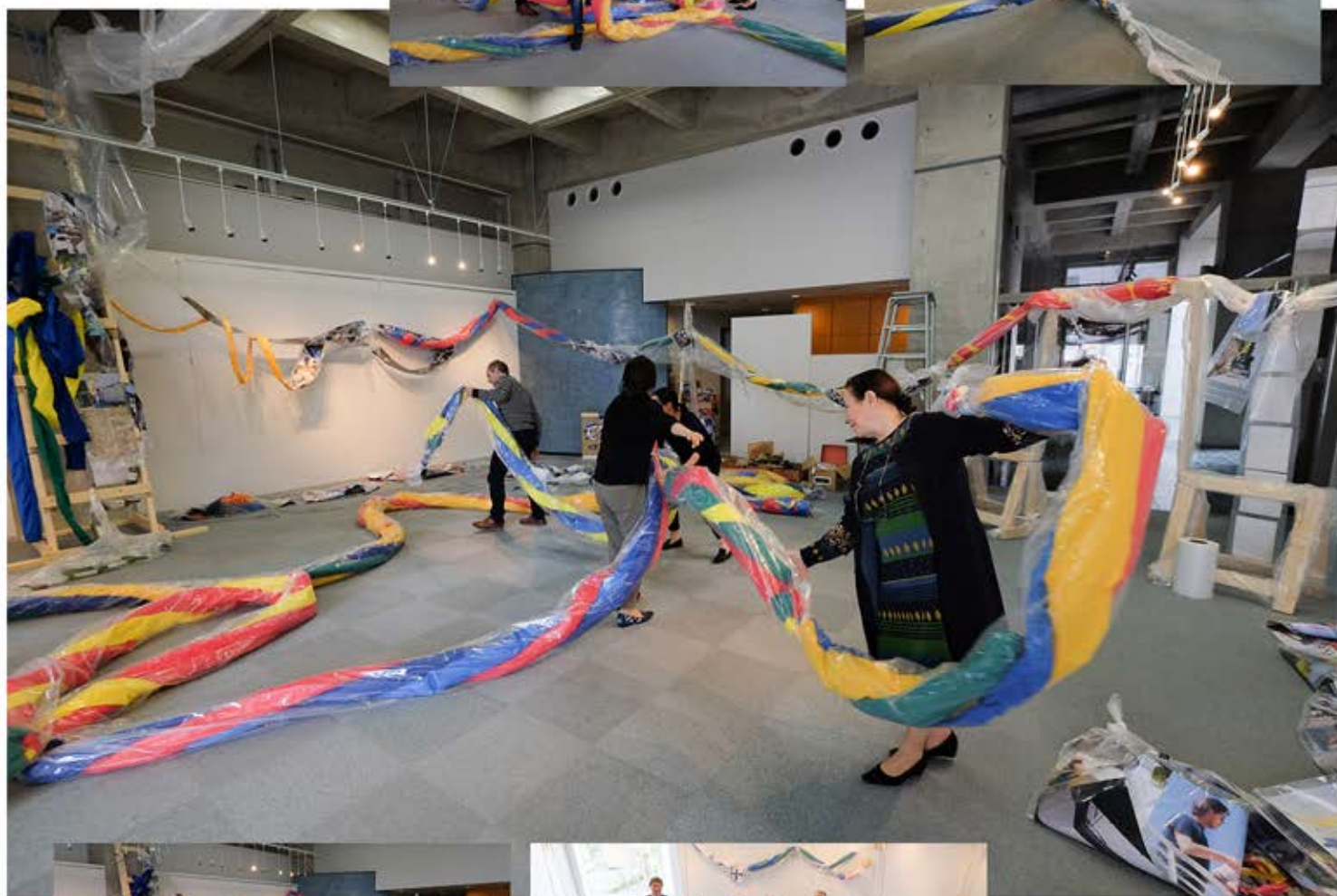
No.40 日仏会館空間縛り（2018年4月、恵比寿、東京）

● シンポジウム「"家縛りプロジェクト"について考える」



司会/澤田直(立教大学教授) 登壇者/レミ・スコシマロ(フランス国立日本研究所) 村田真(美術ジャーナリスト) 山内志朗(慶應義塾大学教授) 角田良江(hmp) 松本春崇

● 日仏会館の館長&スタッフと蝶々結び

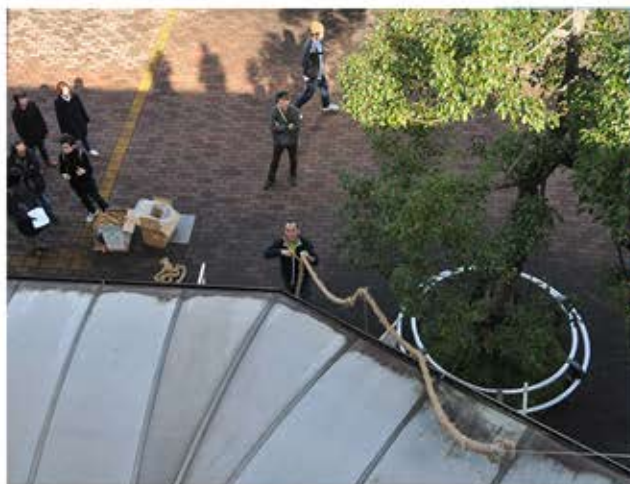




アッサンブラージュ縄文原体（東京-ボルドー-オーダージュアーカッション）
10.5m×12.8m×5.4m ポリチューブ、四都市の縄の写真、木材、竹、ワインボトル、その他 2018年

No.35 神奈川県立相模湖交流センター（2016年11月、相模原、神奈川）





● トークショー「家を縛ることと住まうこと」
山内志朗(慶應義塾大学教授)×松本春崇



● 縄作りワークショップ



No.41 つないで結ぶ足利・愛 足利商工会議所（2018年5月～6月、足利、栃木）

● 愛のメッセージ縄作り

足利市民の人たち、およそ3,000人が書いた”足利への愛のメッセージ”を布縄に仕込んで、足利商工会議所を縛る縄を仕上げる。大勢のボランティアの人たちと作業して3日ばかりで完成させた。





No.42 校庭をつないで結ぶ大泉第一小学校（2018年11月、練馬、東京）

● 縄作りワークショップ

上級生と下級生に分かれて、縄についてのレクチャーを行った後、校庭を縛る縄を作った。

絵を描いた紙やセロファンなどで工作した作品を各自ビニール袋に入れ4本の”自分カプセル縄”を完成。校庭縛りの当日、全員の自分カプセル縄をつないで校庭にめぐらせて、大きな蝶々結びを作った。





● 中ッ原縄文公園を縛るひも縄の色

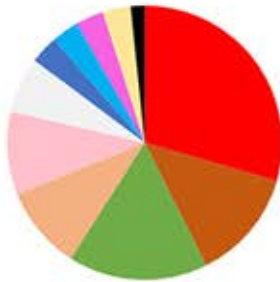
家縛りは、できるだけその家の人たちの希望に基づいた縄を制作しています。中ッ原縄文公園は、国宝土偶「仮面の女神」が出土した地であり、かつて縄文人が住んでいた住居址ですので、そこで生活していた縄文人の家族や人々が望むであろう色で作りたいと思いましたが、そこにいた縄文人は何色が好きだったのか？ 当然そのような記録は残っておらず、ただ残されている縄文時代の発掘品から、赤、黒、青、白が使われていたことは研究者に良く知られていることだそうです。

そこで今回はSNS上や直接お聞きするなどして、今はいない縄文人と心をつなぎ、縄文人の好きな色は何色かお答えいただき縄を制作し、仮面の女神を発掘された尖石縄文考古館の守矢館長さんと集まった方々と一緒に、かつてそこに住んでいた縄文人に成り代わり家縛りしました。（円グラフは、合計30数名の方からお聞きした色を割合別に表したものです）

国宝土偶「仮面の女神」



縄文人が好きな色アンケート結果





No.53 東京造形大学附属美術館（2022年5月、八王子、東京）





家縛りプロジェクトの主なレビュー



「芸術新潮」5月号、2011年、新潮社



「信濃毎日新聞」10月27日、2011年
松本平タウンハウス



縄文式ダブルバインドハウス展

素朴で自在な行為に共感

三田晴夫



● 國家財政部公佈的免稅進口貨物清單

仕事柄から作品に傾き、
ていねい画家が気になさる。
一九五八年生まれの若き華也も、
そのブランドを理めた一人であ
る。だから彼の個性が関心
あると聞いて、オーブンシグダ
日に新藤河田引、高田街の横丁に
ある民家を改築した例に、
ざっ泡いた。加えて、流れて
きた個展の案内状に一画を贈
ります」という一文が添えられ
ていた。この文章は枚挙して
は夠かたことを告白してお

の同色の四角を並べた「4つの
組まり」という連作と取り組ん
でいたのを思い出す。

松本も中野も、なぜ「四つ」
というところに固執したのか。そ
の理由に類した知識は知るよ
りもないが、油断の成り立ちに
集を懸かせた「誤解」は必ず
あり、松本も中野も、それはす
りのプロジェクティブな現象
としてしまったかと、不安を覚
えたものだ。それが、松本に満
ちなかつた。両作家に提示さ
れた「松本が時勢から開始した

[illegible]

三田晴夫

34

「ギャラリー」4月号、2011年、ギャラリーステーション

松本で「家縛りプロジェクト」-ギャラリーと一軒家をそれぞれ縛で縛る

24-4 (11)

3402

5

(2011年10月11日)

[*この記事の場所を見る](#)



大德至善

ちょう結びをして「お守り」の
完成。写真左がねえさん。

松本・筑摩の「ギャラリー石曜(せきりゅう)」
(松本市筑摩2、TEL 0263-27-5396)で10月8日、現代美術家・松本春樹さんによる「家縛りプロジェクト」が行われた。

同プロジェクトは、倉庫や一軒家、ビルなどに縄をかけて縛る現代アート。同ギャラリーのスタッフ・落井みゆきさんが「縛ることをできる建築物を探している人々がいる」という話を聞き、友人の相澤和典さんに「家を持ってもらいたい」と持ち掛けた。当初は相澤さんの自宅のみだったが、松本さんから「せっかくなので2軒」「同日縛りたい」と申し出があり、同ギャラリーで開催することになった。

事前にギャラリーの正面写真と広さを連絡し、それに合わせて紀平さんが瓦焼6本を買い、150メートル分を用意。まず足場と土留を回り、そのような縄をかけるが見当をつける。そこから壁の上にかつて縄をつるし、1本の縄を建物の上から見て手前につけるように掛ける。最初は奥で前庭で、薄井さんや・ゆき平さんが縄をちょろつ結び、「1回でうまく結べるなんて嬉しい」と声が上がると「奥面は奥までつりだしたら（笑）」と薄井さん。結び目を上から引き上げ、2時間ほどで縄が完成した。

「最初はどういう感じになるのか分からなかったが、完成した『情り』を見ると新鮮な感じ」と薄井さん。「無情無義な建物と魂とのコントラストも面白い。縛られた茶の中にある感覚もいつもと違って不思議な感じ。事について考えるきっかけにもなり、貴重な体験になった」と話す。

松本さんは千葉県南の市川市在住。2年前、フランス大使館で使われていた事務所や資材などをまとめて売って博覧会に出たことが「車博」の発端という。「飾りよう」と思ったら何でも飾れるが、一番面白いのは何だろうと考えた。車は、人間に開かれているもの。逆に人間を縛ってみたいと思った」と松本さん。「車の飾りから開放されることは自由になること。でもそれは喜びだけじゃなくて、哀しさとか、孤独といった意味にもつながっているように思う」。プロジェクトは昨年からスタートし、これまでに10軒ほどを飾ってきた。建物以外にも、2人のバイオリンистを飾ってその音楽演奏したことも。

「家の形や、部屋数によって縛り方も違ってくる。生け花のようなイメージで、素材を生かして縛っていく」と松本さん。今回はビルの外壁がスペースとして縛を掛けるのに苦労したという。縛った後は、まだまだ、く。「縛り縛りはその車の持ち主とこのコラボレーション」と松本さん。「観文士路のように（ほだいて）縛」の語が残るような一記憶のかけ残りのようなものでありたい」

腹上と膝上から線を固定して縫る（関連画像）

縛て縛られたギャラリー（関連画像）

信大生、服をテーマに美術館とイベント-現代美術家とのコラボ作品も(松本

經濟新聞)

松本義典さんのホームページ

信平君親仁内府中一職ノ一

「松本経済新聞」ネット版
10月11日、2011年

「日和」11月号、2011年
まちなみカントリープレス



1999年，這家公司在加拿大、美國和歐洲市場上獲得了巨大的成功。在加拿大市場上，該公司獲得了1999年的最佳產品獎。在美國市場上，該公司獲得了1999年的最佳產品獎。在歐洲市場上，該公司獲得了1999年的最佳產品獎。

Jonathan Cross (Hrsg.)
へるを編む
プロジェクト



④ 2009年10月15日、同法改正案が、衆議院で可決された。同日参議院でも可決された。改正法は、2010年4月1日施行となる。

住宅編で縛って
アート作品に
千歳の芸術家松本で
写真・絵画などを手
がける芸術家の松本春
樹さん(53)——千葉県
石塚と入山辺の会社

の住むでたけれど、相沢さんの最後まで住宅では1週間ほどかけて縄を建物の外に通過していった。縄は長さ約150センチ、玄関先へ回してちまちま結びにして完成させた。写真裏られぬように、相沢さんは「不思議な感じがする」と感想を話していた。縄は花道影をしてから引かれた。

松本さんは「字に押られた新聞紙を見てひびくのをみて、2年前から苗圃のシルと住宅宅名を縛る行動を経験している。(音読太一)

「市民タイムス」10月13日、2011年

「市民タイムス」10月13日、2011年

BAC
Inscrivez-vous pour recevoir une alerte dès la publication des résultats à partir du 5 juillet
 M'inscrire !

La maison liée sera exposée à Tokyo

À LA UNE / AUDIENCE / Publié le 21/06/2017 à 3h41 par Stéphane Thierry.



© Le nœud final et les participants. ©PHOTO S. T.

PREMIUM

Samedi, en fin d'après-midi, Yoshie Kakuta et Harutaka Matsumoto, deux artistes japonais, sont intervenus à la maison de Peu (13, rue des Acacias), leur première intervention en Europe. Ils ont réalisé une performance de l'eshibari (maison liée) qui consiste à faire « ficeler » une maison avec une corde, à la manière d'un cadeau, par ses occupants eux-mêmes, aidés par les voisins et les amis, et d'autres participants.

Matsumoto a fabriqué lui-même la corde en tissu qui a servi à enlancer la maison. L'artiste ne donne pas de directives aux participants, il explique le déroulement du projet et aide à la réalisation. Ainsi, la sensibilité de chacun, le sens des valeurs et de la beauté apparaît dans la forme et l'aspect que prend l'ensemble.

L'esthétique de la famille

C'est « l'esthétique de la famille », qui va influencer la forme (kata) finale. Car, selon l'artiste, chaque maison est influencée par le style de vie, les traditions et le sens de la beauté des personnes qui y habitent. La technique employée varie selon les maisons, selon les

奎遊抄

抄遊を

漫画作家の
松本春樹さんは、
知ったのは
「哲学」を読んで
いた留學生時分。
7歳だった息子が近
所の人とも関係よくて、感
に上る。開始から4時半
間ほどで家の4階と環境
に興がめぐる。最後は
正面でまっすぐ結
び、それをクックル
に記念写真にとり
まき飲み会に突入し
た。

以来、「家縛り」大
信者になったはずく
は、機会あるごとに
「お母さん」といふ
に「お母さん」とい

んはニコリを出す程度。
ささげへ。「うちも縛
ってー」とお願いした。

ついでに息子が大開
所の人も興味津々で、感
に上る。開始から4時半
間ほどで家の4階と環境
に興がめぐる。最後は
正面でまっすぐ結
び、それをクックル
に記念写真にとり
まき飲み会に突入し
た。

田直
澤

せんか？」といふお
未知の人でも「縛れ仲好
み」というだけを知人の
気がする。今や松本さ
が縛った家は別荘以上
な初縛りはばくの市歌の
成実だ。(された、なおお)

立教大学教区

日本経済新聞「家を縛る」(執筆:澤田直) 6月10日 2017

相模原・桂北小「家縛り」

[illegible]

学校の校舎全体にたい風を十センチ出けて、大きなちやうちやの結核を燃やすシートイベントがはじけ、期間限定で立井北小が校庭・同市緑地公園でこけられた、金沢児童館の人が校舎を取り囲む陣に自らも臨んだ風を急ぐたり、さまざまなまなブジエを結びつけた。学校があるこふレセントのようになりた。

（西本 昌樹）

学校をちょうちょ結び

児童92人飾り付けも

児童92人飾り付けも



神奈川新聞「学校をちょうちょ結び」1月13日 2017

現代アート 博物館を縛る 市川考古博物館

縄文時代の貝塚に隣接する市川市立市川考古博物館（同市堀之内）で31日、縄で博物館を縛る現代アートのイベントがあった。地元の実業家、松本春樹さん（54）の制作活動「家縛りプロジェクト」の一つ。

より合わせたシュロ縄やわら縄計270本を建物にわたし、正面の入り口で蝶々結びに。松本さんは「縄文土器の縄の跡のように、この縄の痕跡が人々の記憶に残れば」と話していた。



縄で縛るアートの舞台
になった市川考古博物
館Ⅱ市川市堀之内

朝日新聞「現代アート 博物館を縛る」 4月1日 2013





松本経済新聞 2019年7月9日 (松本経済新聞社)



信濃毎日新聞 2019年7月18日 (信濃毎日新聞社)



市民タイムス 2019年7月8日 (市民タイムス社)



長野日報 2019年8月17日 (長野日報社)



長野日報 2019年8月25日 (長野日報社)



信濃毎日新聞 2019年8月27日 (信濃毎日新聞社)



茅野市民新聞 2019年8月30日
茅野市民新聞社

茅野市民新聞
2019年9月1日 (茅野市民新聞社)



茅野市民新聞
2019年10月30日 (茅野市民新聞社)



長野日報 2019年9月2日 (長野日報社)



長野日報 2019年10月30日 (長野日報社)



長野日報 2020年1月4日 (長野日報社)



長野日報 2020年2月3日 (長野日報社)

年 譜

- 1958 滋賀県に生まれる
- 1984 多摩美術大学油絵科卒業
- 1986 多摩美術大学大学院美術研究科修了
- 1987-1989 フランス政府給費を受けて、フランスのエコール・デ・ボザール パリ(国立高等美術学校)に留学
(アトリエ:クリスチャン・ボルタンスキー)
- 2003-2004 文化庁新進芸術家海外研修員としてニューヨークに滞在
千葉県在住

主な個展

- 2023 「岡谷シルクトレインプロジェクト 岡谷シルクトレイン-世界への玄関 横浜へ行く」岡谷蚕糸博物館、長野
- 2020 「旅の終わり展」双ギャラリー、東京
- 2019-2000 「ひも縄の精霊とつながるもの」諏訪市美術館、長野
- 2019 「旅の始まり展」双ギャラリー、東京
- 2018 「縄文式アッサンブラージュ 東京〜ボルドー
家縛りプロジェクト(メゾン・ド・ブ)を中心にした縄の記憶と痕跡」日仏会館ギャラリー、東京
- 2017 「ストップージュ・点的パーテーション」表参道画廊、東京
「アッサンブラージュ縄文」メゾンドブ、ボルドー、フランス
- 2016 「縄文ホワイト方丈記」神奈川県立相模湖交流センターアートギャラリー、神奈川
- 2015 「縄文ダブルバインド ステファンの家」カリフォルニア、USA
- 2013 「十字縛り-キャッチアンドリリース」スペースチェリーハイム、東京
- 2011 「すみれ洋裁店の四つのものを十字に縛る」すみれ洋裁店、長野
「縄文式ダブルバインドハウス」アイショーミウラアーツ、東京
- 2007 「ジュリエット」リッツカールトン パークレジデンス、東京
- 2006 「鏡格四色」アートコートギャラリー、大阪
「鏡の格子・四色の絵画」なびす画廊、東京
- 2005 「Hudson River」ギャラリーGAN、東京
- 2004 「4ism、Grid」チェルシースタジオ、ニューヨーク、アメリカ
- 2002 「4ism」ギャラリーGAN、東京
- 2001, 2000 なびす画廊、東京
- 1999 なびす画廊、東京
「ベニクラゲ」ギャラリーGAN、東京
- 1996 「さよならファラオ」ギャラリーGAN、東京
- 1995 なびす画廊、東京
- 1992 なびす画廊、東京
「INSTINCTIVE VISION」Studio EX 生活倉庫、名古屋
- 1990, 1991 なびす画廊、東京
- 1989 なびす画廊、東京
メゾン・ドゥ・ジャボン、パリ、フランス
- 1987 なびす画廊、東京
画廊パレルゴン、東京
ギャラリーカエサロン、東京
ギャラリールナミ、東京
- 1986, 1985, 1984 画廊パレルゴン、東京
- 1983 スタジオ4F、東京

主なグループ展

- 2025 「アライブ!展」BankART Station、神奈川
- 2023 「版画天国Ⅶ」ギャラリーSIACCA、東京
「And Again」諏訪市美術館、長野
- 2022 「2PS『危機のない』時代のパッセージ・パルタージュ展」東京造形大学附属美術館、東京
「双ギャラリークロージング&出版記念展」双ギャラリー、東京
- 2018 「あしかがアートクロス」足利商工会議所、栃木

- 2017 「夏の常設展」 +Y Gallery、大阪
- 2016 「おっとぼけ万博」 おっとぼけ美術館、長野
- 2015 「小坪・路地展」 南町テラス、神奈川
「House Beats - 攪拌する家」 explosion tokyo viewing room、東京
- 2014 「『After Story』出版記念展」 NADiff A/P/A/R/T、東京
「春のおくりもの」 なびす画廊、東京
- 2013 「なべよこ ni アート」 みずほ銀行中野支店、東京
「新しい壁」 Walls Tokyo、東京
「Unknown History」 Underground、東京
「賛美小舎」 横浜美術館、神奈川
- 2012 「Double Bind Gallery」 ギャラリー21yo-j、東京
「View」 早稲田スコットホールギャラリー、東京
「Unknown Voice」 遊工房アーツスペース、東京
- 2011 「111111 おわりのない行列」 ZOKEI ギャラリー、東京
「Unknown」 アユミギャラリー、東京
なびす画廊、東京
「Last Breath?」 ZAIM、神奈川
- 2010 「Cinemas-Weekend Christian」 Musee d'Art Contemporain Du Val-De-Marne (MAC/VAL)、
Vitry-sur-Seine、フランス
- 2009-2010 「No Man's Land」 在日フランス大使館旧庁舎、東京
- 2009 「縄文-話の続き」 市川市立歴史博物館、千葉
- 2007-2008 「Japanese Contemporary Painting」 PYO Gallery、北京、中国
- 2007 「La Chaine-日仏現代美術展」 BankART1929Yokohama、神奈川
「Japanese Contemporary Art Festiva」 ヘイリ芸術村、ヘイリ、韓国
- 2006 「縄文-人間彫刻」 市川市立歴史博物館、千葉
ギャラリーなつか、東京
- 2005 「ピークスキル・プロジェクト 2005」 ギャラリー25N、ニューヨーク、アメリカ
「AIM2005」 市川市立歴史博物館、戸定邸ガーデン、千葉
「二月のおくりもの」 なびす画廊、東京
兵庫県立美術館、兵庫
- 2004 「ピョロギ・フラットファイル」 Gallery Pierogi、ニューヨーク、アメリカ
「ピークスキル・プロジェクト」 パラマウントシアター、ニューヨーク、アメリカ
「iscp オープンウィークエンド」 International Studio & Curatorial Program (ISCP)、ニューヨーク、アメリカ
- 2003 なびす画廊／東京
- 2001 「チバ・アート・ナウ'01 - 絵画の領域」 佐倉市立美術館、千葉
- 1999 「プレリユード」 ギャラリー ラ・フェニーチェ、大阪
- 1998 「Each Artist, Each Moment 1998」、ギャラリーGAN、東京
- 1997 「VOCA 展'97」 上野の森美術館、東京
- 1996 「匍匐は跳躍」 なびす画廊、東京
「フィリップ モリス アート アワード 1996」 青山スパイラル、東京
「第 12 回クリーブランド・インターナショナル・ドローイング・ビエンナーレ」
ミドルスブルフ・アート・ギャラリー、クリーブランド、イギリス
- 1994 「第 13 回平行芸術展」 エスパス OHARA、東京
- 1993 「金曜日のまれびとたち」 なびす画廊、東京
- 1991 「フロンティエール・ドゥ・イマージュ」 エスパス・ジャポン、パリ、フランス
- 1990 「絵画・日本 断層からの出現」 東高現代美術館、東京
- 1988 「世界の作家展」 ギャラリーベルナノス、パリ、フランス
- 1987 「ぷろみしんぐ・なびす」 なびす画廊、東京
「現代日本 67 作家ポスター原画展」 フジテレビギャラリー、東京
- 1986 画廊パレルゴン、東京
ギャラリーNEWS、東京
「アモライム II」 ギャラリーQ+1、東京
「第5回平行芸術展」 エスパス OHARA、東京
- 1985 「表現の現場展」 多摩美術大学、東京
真木画廊、東京
「青野剛、松本春崇二人展」 ときわ画廊、東京
神奈川県民ホール、神奈川
- 1984 「町と色の展覧会」 倉敷市立展示美術館、岡山
- 1983 「原村フェスティバル」 原村、長野

その他のプロジェクト

＜コードカラー美術館(CCM)プロジェクト＞

☆ある家(場所)で、その住人を美術館長とし、その家の美学に基づいて美術館活動をおこなう私設美術館を作るアートプロジェクト。

日常的な空間を芸術空間として開く鍵として「コードカラー」を設置して、展覧会などの美術館活動をおこなう。コードカラーとは、美術館館長となった人が好きな色を四色を混ぜて作った特別な色、暗号色である。

美術館の設置

- 2013 年 4 月 ブルースジャパン コードカラー美術館(ブルースジャパン CCM)、柏、千葉
- 2012 年 7 月 土屋コードカラー美術館(土屋 CCM)、山武、千葉
- 10 月 幕張新都心地下第二駐車場 CCM、千葉、千葉
- 2011 年 12 月 岡本記念コードカラー美術館(岡本記念 CCM)、市川、千葉

各美術館で実施した展覧会

- 2012 岡本記念 CCM、澤田レオ展「金魚パラダイス」
土屋 CCM、土屋陽子展「発信源」
幕張新都心地下駐車場 CCM
24 人の若手アーティストによるグループ展 「車のかわりにアートを駐芸」
岡本記念 CCM、渡辺望展「Ground Channel」
- 2013 岡本記念 CCM、Hanna 展「Fragments of the Present」
ブルース・ジャパン CCM、加藤晶子展「プラスチックは自然素材だと思うんだ」

その他

- 2020 企画：シンポジウム「縄の聖地への旅を終えて」双ギャラリー、東京
石埜三千穂(諏訪信仰研究会スワニズム理事) 四方幸子(十和田市現代美術館館長)
山内志朗(慶応大学教授) 角田良江(hmp Art) 松本春崇
- 2019 企画：シンポジウム「ひも縄の精霊と家縛りプロジェクト」茅野市美術館、長野
四方幸子(十和田市現代美術館館長) 守矢昌文(尖石縄文考古館館長)
山内志朗(慶応大学教授) 湯沢英彦(明治学院大学教授) 角田良江(hmp Art) 松本春崇
企画：トークショー「御柱の松尾さんを囲んでー御柱と縄 談義」タロウ珈琲式号店、長野
企画：小口緑子パフォーマンス「すみれ洋裁店一夜飾り」すみれ洋裁店、長野
- 2018 企画：シンポジウム「家縛りプロジェクト」について考える」日仏会館ホール、東京
澤田直(立教大学教授)、村田真(美術ジャーナリスト)、山内志朗(慶応大学教授) 角田良江(hmp Art)
松本春崇 他
- 2008 企画：クリスチャン・ボルタンスキーの講演「La Vie Possible Christian Boltanski」国立新美術館
「La Vie impossible de Christian Boltanski」東京大学、東京
- 2007 共同企画&キュレーション：グループ展「La Chaine-日仏現代美術展」
BankART1929Yokohama, BankART StudioNYK、神奈川
クリスチャン・ボルタンスキー、ガブリエラ・フリードリクスドッティール、田中功起、さわひらき、松本春崇 他
- 2005 企画&キュレーション：Kjell Bjorgeengen ビデオインスタレーション「Taku-de-Art」Y House、千葉

受賞

- 1997 関口芸術基金賞 優秀賞
- 1986 日仏会館ポスター原画コンクール 大賞

主なコレクション

- 2015 那須野が原博物館、栃木
- 2013 ソフトマシーン美術館、香川
横浜美術館、神奈川
- 2007 柏市、千葉
- 1992 MTM コレクション、千葉
- 1986 日仏会館、東京

アーティスト・イン・レジデンス

- 2023 岡谷シルク アーティスト・イン・レジデンス、長野
2003-2004 iscp (International Studio & Curatorial Program)、ニューヨーク、アメリカ

助 成

- 2019 公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団
（「旅する家縛りプロジェクト 縄の聖地・信州へ」 東京、神奈川、長野）
2018 公益財団法人朝日文化財団
公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団
（ともに「縄文式アッサンブラージュ 東京～ボルドー」 日仏会館ギャラリー、東京）
2017 公益財団法人朝日文化財団
（「アッサンブラージュ縄文」 メゾンドブ、ボルドー、フランス）